

宗像市の花 カ/コユリの鑑賞会



宗像固有種のカ/コユリには、花色に多くの変異が見られます



宗像固有種のカ/コユリを、種から育てたカ/コユリの花が咲き始めましたので、
下記のとおり、「宗像固有種」のカ/コユリの鑑賞会を開催します。

◆ -----

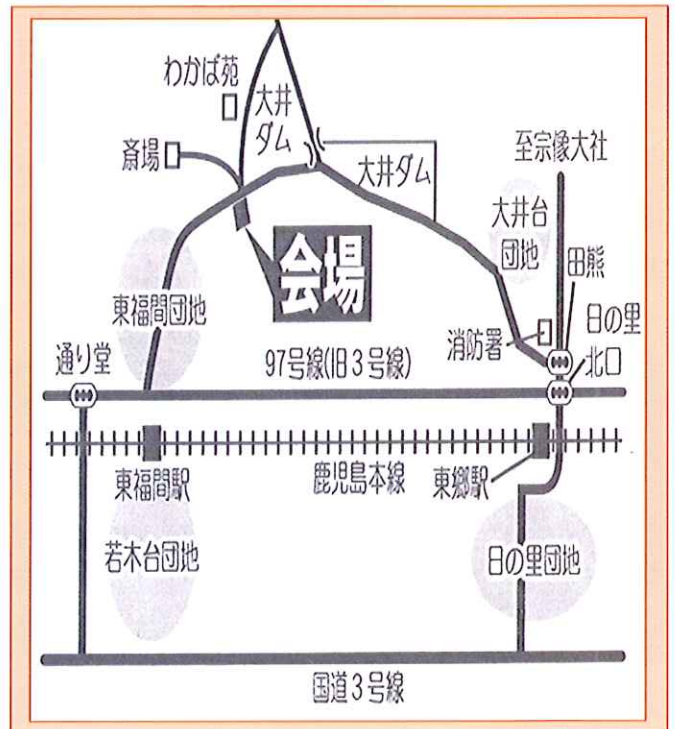
◇期日：8月1日(月)～7日(日)

◇時間：午前9時～12時

(毎日先着30名様に宗像固有種の実生苗を差し上げます)

----- ◇

場所：宗像市大井1439-7
吉田花園内
連絡先：宗像カ/コユリ研究会会長
吉田博美 0940-36-3054



この鑑賞会は「平成28年度人づくりでまちづくり事業補助金」事業として行います。

宗像市の花「カノコユリ」とは

宗像市の花は「カノコユリ」、これは昭和56年に決められました。昭和56年2月に市の樹・市の花の公募が行われ、市の花は136点の応募の中から選考委員会の協議を経てカノコユリに決められ、4月から施行されました。カノコユリが選ばれた背景として、宗像市は全国でも珍しいカノコユリの自生地であることが、決定の大きな要因となったようです。

市の花に指定された当時もすでに、自生のカノコユリは急速に減少してきており、宗像で確保し流通できる球根は全くありませんでした。このため、県外（鹿児島県等）から4000球の球根が導入され、市民に配られた経緯があります。しかし、その大部分はカノコユリに適した場所に植えられていないこともあって枯死し消失して、市民が目にする機会は限られています。

宗像市固有のカノコユリ

平成22・23年に九州大学と宗像市等により宗像市におけるカノコユリの実態調査が行われました。採集されたカノコユリの葉を九州大学でDNA検査された結果、多くは他県由来のカノコユリでしたが、数か所のカノコユリのDNAが宗像市由来のものであることが判明しました。

この宗像由来のカノコユリを宗像固有種と呼ぶこととし、宗像市・むなかた水と緑の会・宗像カノコユリ研究会では固有種の保存、増殖及び普及を図る活動を行っています。

カノコユリは、生育環境を選びます。好適な場所では自然増殖して広がっていきますが、不適環境下では直ぐに絶えてなくなります。好適な環境の土地に植え、関心を持ち、草刈りや日照調節など、ほんの少し人が手を加えれば、自生地が広がってゆきます。カノコユリの花が咲く里づくりのためには、カノコユリに対する正確な知識と維持しようとする意志を持った人の手助けが必要です。

カノコユリの実生繁殖

カノコユリの実生繁殖には、いくつかの方法がありますが、宗像固有種の実生繁殖は大量生産が可能な実生繁殖を行っています。しかし、実生では開花までに長期間を要し5年目でやっと開花しますが、昨年より固有種の実生カノコユリが開花始めました。



1年目 ⇨ 2年目 ⇨ 3年目 ⇨ 4年目 ⇨ 5年目